



西武新宿線沿線 まちづくり通信



発行：平成24年12月 杉並区 都市整備部 都市計画課 鉄道立体担当

「まちづくり協議会」の発足から約1年 地域の皆様がまちづくりに取り組んでいます



所蔵：財団法人野球体育博物館

▲現在の上井草グラウンド

▲早稲田大学対明治大学(昭和25年、上井草球場)

上井草駅・井荻駅・下井草駅の3駅周辺地区において、まちづくりの検討に取り組んでいる西武新宿線沿線の「まちづくり協議会」発足から1年と3カ月が経ちました。

「まちづくり協議会」では、各駅周辺地区の「まちづくり構想」をまとめ、区へ提案することをひとつの目的として活動しています。

今号では、個性豊かに活動を広げ、構想案作成や地域住民の声を活かしたまちづくりに取り組んでいる各協議会の様子をご紹介します。

また区では、まちづくり協議会の活動を支援するとともに、協議会からの「まちづくり構想」の提案や地域の方々のご意向を伺いながら、西武新宿線沿線のまちづくりを進めていきます。



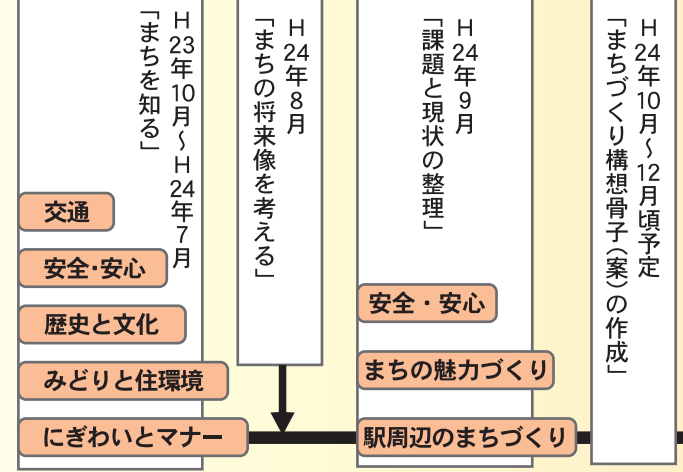
各駅周辺地区まちづくり協議会の活動をご紹介します。

上井草駅周辺地区まちづくり協議会

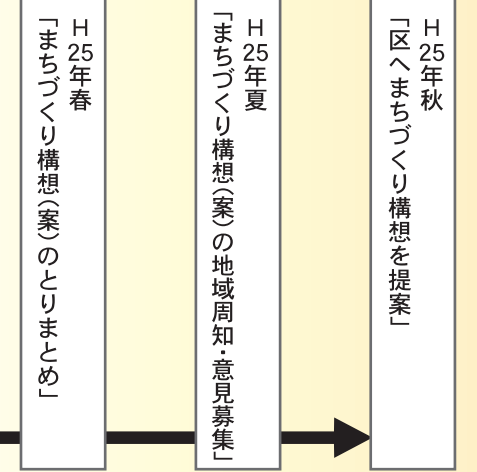


協議会では、概ね月1回の定例会を開催し、まちづくりの検討を行っています。
 昨年から今年の7月にかけて、まち歩きやグループワークを通して、まちの現状や問題点について検討し、5つのグループ毎に発表しました。
 また、会員が持ち寄った“将来のまちをイメージする写真”を用いて、将来像の検討を行い、「まちの個性を将来にわたって守り育てることで、多くの人が集まるような魅力あるまち」がビジョンとして描かれました。
 現在は、将来像実現のための14の課題を整理し、再編された3つのグループ毎に、課題を解決するための基本的な考え方をまとめ、まちづくり構想骨子(案)の作成に取り組んでいます。
 今後は、「まちづくり構想(案)」のとりまとめを進め、協議会としての構想(案)を地域の方々に周知し、ご意見を伺いながら、区へ提案するまちづくり構想に磨きをかけていきます。

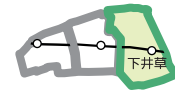
■現在までの活動状況



■今後の活動予定



下井草駅周辺地区まちづくり協議会

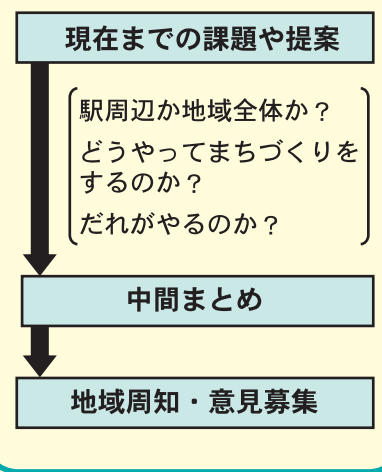


協議会では、ほぼ毎月、まちづくり検討会を開催し、まちづくりの検討をしています。
 最近の検討会には、毎回20名弱が参加しており、まちづくりのイメージや課題を共有するため、必ず一人一言、意見や提案をする様に進めています。
 その中で、“私たちのまちの将来イメージ”として、「ほっとするまち」「便利で賑わいのあるまち」「高齢者や子どもが安心して暮らせるまち」「安心して、気持ちよく歩けるまち」「人が集い、共に文化を築くまち」などがあげられています。
 具体的なまちづくり構想の提案に向け、今まで出された課題や提案を、「下井草駅を中心とした商店街エリア」と「地区全体のまちづくり」に分け、「どうやってまちづくりをするのか(守るのか、復活させるのか、新たにつくるのか等)」、さらに、「だれがやるのか(地域、行政、協働等)」について検討を始めています。
 今後、地域の方々のご意見を伺うため、年度内を目標に、中間まとめとして協議会のニュース等でご案内する予定です。

まちの将来像イメージ(案)

ほっとするまち
 便利で賑わいのあるまち
 人が集い、共に文化を築くまち
 安心して、気持ちよく歩けるまち
 高齢者や子どもが安心して暮らせるまち

■今後の活動予定

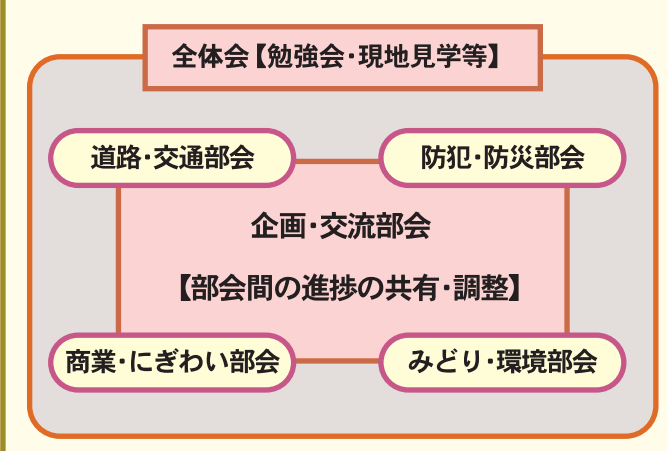


井荻駅周辺地区まちづくり協議会

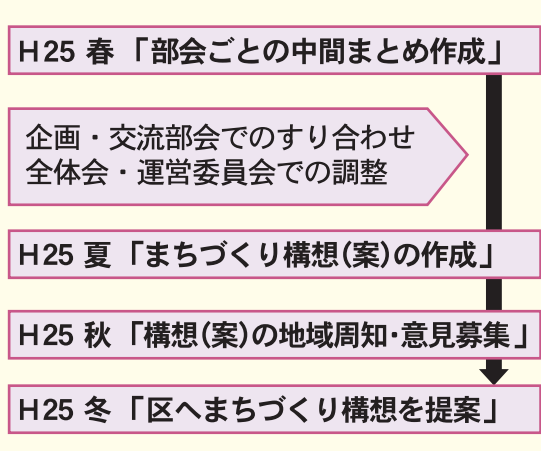


昨年は、全体で「井荻をどんなまちにしたいか」「取り組んでみたいこと」をワークショップ等で検討しました。
 今年の2月より、「道路・交通部会」「防犯・防災部会」「商業・にぎわい部会」「みどり・環境部会」に分かれ、それぞれのテーマ毎の課題整理とまちづくりの方向性を検討しています。
 今年度からは各部会の部会長を中心に、4テーマの進捗状況を共有・調整する「企画・交流部会」を設置し、中間まとめの検討を重ねています。
 今後は引き続き、中間まとめの完成に向け、4部会ごとに取り組んでいきます。また、全体会では4部会で共有して取り組むべきテーマ(「連続立体交差事業先進事例」「杉並区の防災について」など)を、現地見学などを行いながら、理解を深めていきます。なお、協議会活動を地域の方々に知っていただくPR活動についても検討していきます。

■現在の活動イメージ



■今後の活動予定



PICK UP

まちあるき

まちの現状・課題を知るには「まち歩き」が最適です。
 歩き慣れた道でも、意識していないと気付かないところがたくさんあります。
 西武新宿線沿線地区においても、3協議会それぞれが「まち歩き」を行いました。その様子のご意見の一部をご紹介します。



上井草駅周辺地区まちづくり協議会

- ◆全6コースに分かれ、気になる場をそれぞれ記録・撮影しました。
 - 「屋敷林や遊歩道のみどり」と「まちの静かさ」がこのまちの良いところ
 - 地区のほとんどが住居専用地域で子どもが多い
 - 駅周辺の歩車混雑と踏切問題
 - 特定の道路で車の通過交通量が極端に多い
- etc...



井荻駅周辺地区まちづくり協議会

- ◆部会ごとにまち歩きを行い、それぞれの検討に活かしています。
 - 比較的良好な住環境が保たれている
 - 震災時の体制(震災救援所・広域避難所への避難)の周知がされていない
 - 駅周辺の路上駐輪など自転車問題
 - 狭い道路や通学路を大型車両が通行するため危険
- etc...

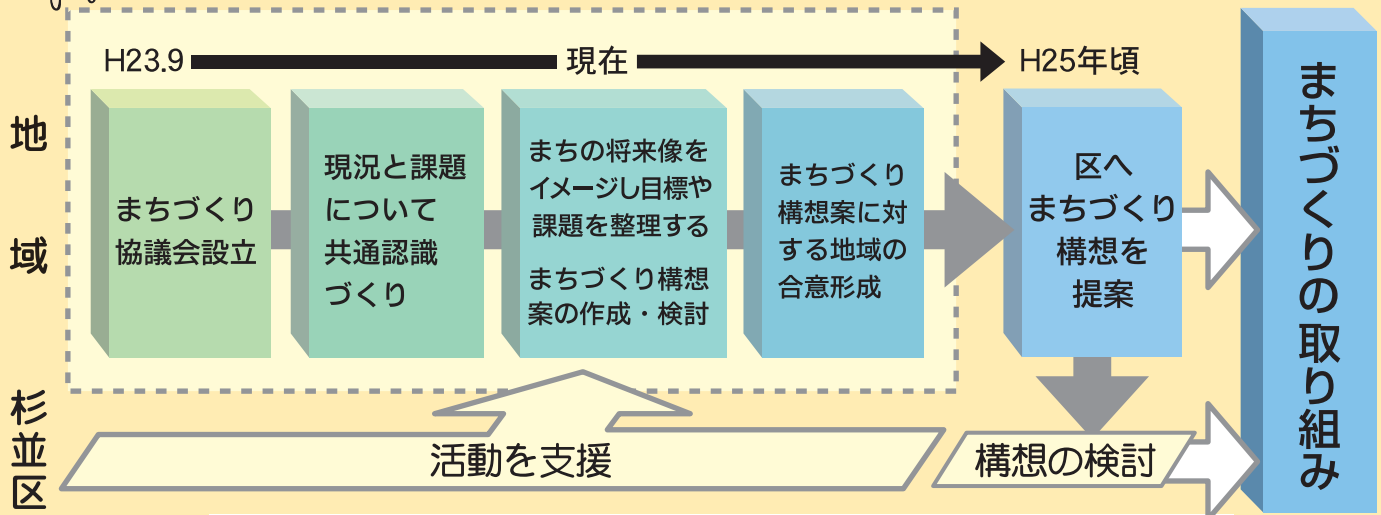


下井草駅周辺地区まちづくり協議会

- ◆駅周辺地区を南北2つのエリアに分け、まち歩きを行いました。
 - 地区の南側は歴史的資源が豊富
 - 一方通行規制のため、裏通りの住環境は良好
 - 旧早稲田通りが危険
 - 個人敷地のみどりが大部分で、将来が担保されていない・公的で大きなみどりが必要
- etc...



西武新宿線沿線 まちづくりの進め方



沿線探訪 《上井草球場》

杉並区の北西に位置する「上井草スポーツセンター」。暮盤の目のように整備された低層住宅地の中、ひときわ目立つこの場所で、かつてプロ野球（当時は職業野球）が開催されていたことを皆さんはご存知でしょうか。

事の始まりは、昭和2年。西武鉄道は井草地域に鉄道を開設させる際、駅間が短く、採算上の問題から3駅の開設を憂慮していました。そこで、当時の町長であった内田秀五郎氏は「遊園地等を造り、行楽客の誘致を図るのはどうか」と提案をしました。西武鉄道はこの提案を参考に、上井草・井草・下井草の3駅開設と共に、テニスコートや陸上トラックを有する「上井草競技場」を建設しました。

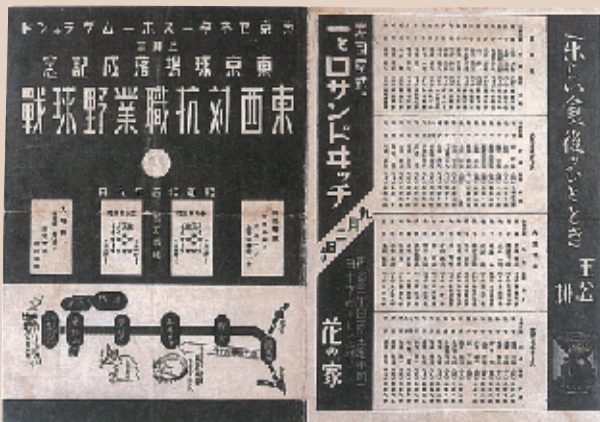
それから9年後の昭和11年、当時東京にプロ野球専用球場がなかったことに注目した西武鉄道は、上井草競技場を東伏見に移転し、その跡地に「上井草球場（当時の正式名称は東京球場：収容人数3万人）」を建設しました。こうして、東京初のプロ野球専用球場として、公式試合が上井草球場で行われたのです。

翌年の昭和12年に「後樂園スタジアム」が完成してからは、都心からやや遠いことや当時の鉄道輸送能力に限界があったことなどから、プロ野球の試合が開催されることはほとんどありませんでしたが、その後も東京六大学野球や軟式野球などが盛んに行われ、野球場としての賑わいを失うことはありませんでした。

時は流れ、昭和42年には東京都の事業により、貯水池を併設した「上井草総合運動場」として生まれ変わり、昭和54年に杉並区への移管、平成10年に全面リニューアルが行われました。

現在、区内最大のスポーツ施設として、多くの方々に親しまれている「上井草スポーツセンター」。

館内にも当時の様子が展示してありますので、訪れた際は立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



▲昭和11年8月、タイガース対大東京軍の試合を皮切りに職業野球戦が落成記念試合として開催されました（写真は当時のパンフレット）



▲上井草球場に関する展示コーナー（上井草スポーツセンター内）

《表紙写真(右下)提供》
財団法人 野球体育博物館
〒112-0004 文京区後楽1-3-61 tel 03-3811-3600
《写真(左)提供》杉並区郷土博物館
《参考文献》杉並区立郷土博物館発行『上井草球場の軌跡』

問い合わせ先：杉並区 都市整備部 都市計画課 鉄道立体担当
TEL 03-3312-2111 内線 3504
FAX 03-5307-0689